

人々の笑顔があふれる「地域づくり」を応援する

# 地域づくりinほくりく

2018 NEW YEAR



大町ダム(北陸第3号ダム)

ダムの天端から大町の市街地が見える。従って街からも  
砦である大町ダムが見える。大町ダムは冬になると龍神湖  
の水が凍る。この上流に七倉ダム、高瀬ダムがある。

絵 土田 和男

## ◆ 新年のご挨拶

大林 厚次(北陸地域づくり協会 理事長)

2

## ◆ 年頭のご挨拶

小俣 篤(国土交通省 北陸地方整備局長)

3

## ◆ 随 想

道地 慶子(石川工業高等専門学校教授)

人・まちをつなぎ、育む「せせらぎMarche」

4

## ◆ 特別企画

建設業で働く女性がカッコイイ！  
「けんせつ小町」のガールズトーク  
北陸地方整備局 湯沢砂防事務所

6

## ◆ 北陸再発見

北陸・冬の味覚 幻魚 (新潟県・富山県)

10

## ◆ 特集「地域とともに」I

伝えたい、みなとまち新潟の魅力  
信濃川ウォーターシャトル案内人養成講座  
リバークルーズ愛好会(新潟県新潟市)

12

## ◆ 特集「地域とともに」II

地域づくりセミナーを開催しました

14

## ◆ 会員だより

18

## ◆ 伝言板

20

# 新年のご挨拶

(一社)北陸地域づくり協会 理事長

おおばやし こうじ  
大林 厚次



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年<sup>2017</sup>の世相を表す漢字は「北」に決まりました。「漢字の日」にあたる12月12日、京都・清水寺で発表されましたが、意外と思われた方も多かったのではないのでしょうか。

やはり国民の多くは北朝鮮、九州北部豪雨、北海道関連等を選んだ理由として挙げたようです。北朝鮮関連では核問題、ミサイル問題、拉致問題等と多岐にわたっており毎日のように報道されています。特に核・ミサイル問題はことによっては世界を震撼させる大変な問題であり最悪の事態だけは避けてもらいたいと願うばかりであります。

年末には新たな問題として、日本海沿岸に相次ぎ漂着している北朝鮮籍と見られる木造船、難破？ 脱北？ 作業員？ 住民に不安が広がっています。何故この冬に急増？ 日本海で違法操業中に遭難した漁船とみられており、北朝鮮では今何が起きているのか。謎に包まれた国故、何が起きてても不思議ではないと思わざるを得ない状況にあります。

昨年<sup>2017</sup>も豪雨災害が発生しました。7月5～6日にかけて九州北部に線状降水帯が形成され、福岡県や大分県を中心に記録的な大雨となりました。福岡県朝倉と大分県日田は観測史上1位の記録。この大雨により河川の氾濫や建物の浸水被害、土砂災害が発生し、40名を超える犠牲者や行方不明者がでる甚大な災害となりました。

台風は例年に比べ多く、8個接近のうち4個が上陸。7月に発生した台風5号は消滅まで19日間の歴代2位の長寿を記録。夏は全国的に雨が多く日照不足となり、東京では40年ぶりに21日連続の降水日数を記録。黒潮の大蛇行は12年ぶりと言われており、気象も異常な動きを見せておりますが、今年は災害のない平穏な一年であってほしいものです。

また、昨年は偽装問題が多く発覚した年でありました。10月に鉄鋼関係をはじめとする複数の製造業のデータ改ざん問題、自動車関係では無資格検査官による検査等、連鎖的に明らかになりました。これまでも食品偽装をはじめ、建設関連では滑走路の薬液注入量の改ざん、マンションの杭データ偽装等の多くが報道されてきました。偽装が発覚したことにより、組織には多大な損害をもたらし、時には組織の存亡にかかわる事態に発展することを理解しながら、なぜ偽装が行われるのであろうか。「日本経済の長期低迷によって経済的な圧力が増し、人々が利益に走ることをもはや道徳では制御できなくなっている」との指摘もありますが、再び日本が高品質で勝負できるにはどうすればよいのか解き明かす必要があります。

少子高齢化による労働人口の減少が、日本の抱える大きな問題の一つとなっており、政府を挙げて「働き方改革」の取り組みが行われております。当面は労働力の供給不足の対応として長時間労働の是正等の働き方改革により生産性の向上を図り、長期的には総合的な少子化対策を進めなければならないといわれております。

当協会は一昨年末に国から要請を受けていた発注者支援業務等からの撤退を無事終えることができました。改めて会員の皆様をはじめ関係機関の方々にお御礼申し上げます。

平成29年度は組織規模は当時の2割程度の100名余りで、厳しい経営環境のなかスタートしたところであります。引き続きマネジメント的業務を中心にチャレンジし、安定的な経営環境を目指し取り組む所存であります。今後とも会員の皆様にはご指導、ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

終わりに、会員の皆様にとって素晴らしい一年になりますようご祈念申し上げ挨拶といたします。

## 年頭のご挨拶

国土交通省 北陸地方整備局長

おまた あつし  
小俣 篤



新年、あけましておめでとうございます。

平成30年の新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人北陸地域づくり協会の会員の皆様には、平素より北陸地方における国土交通行政の推進に、ご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は芋川地区直轄地すべり対策事業の完了、梯川小松天満宮分水路の竣工、上越魚沼地域振興快速道路「八箇峠道路」の部分開通、金沢東部環状道路の神谷内・東長江区間4車線化開通など、大きな事業に区切りをつけることができました。さらに、国道8号の豊田新屋立体、日本海沿岸東北自動車道「朝日温海道路」や金沢港南地区無量寺岸壁再整備事業の着工など、新たな事業が動き出した年でもありました。本年も着実に社会資本整備を進めて参りますので、引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

また、昨年は九州北部豪雨や台風21号など、災害の多い年でもありました。九州北部豪雨では、早期復旧支援のため北陸地方整備局からもTEC-FORCE隊延べ173人日を派遣しております。北陸地整管内では人命に関わるような大災害はありませんでしたが、県の管理する河川や道路等では洪水氾濫や堤防の欠損・法面崩壊なども発生しており、新潟県では災害復旧の査定が12月まで続くほど、多数の被害が確認されています。

また、梅雨前線豪雨や台風により、梯川では氾濫危険水位を超えて危険な状況となりました。この際、小松天満宮分水路をはじめとする

改修事業の効果により、洪水の水位は大きく低下しており、着実な事業効果の発現を改めて実感したところです。

世の中の動きを見ますと、昨年は所定外労働時間の上限規制をはじめ、政府全体をあげた働き方改革の動きが大きく加速した年でありました。建設界においても今後の担い手確保・育成の観点から、働き方改革は喫緊の課題です。国土交通省では先んじて生産性革命、とりわけi-Constructionの取り組みを進めていたところですが、北陸地方整備局においても、ICT施工、プレキャスト製品の活用、施工時期の平準化等に取り組んでまいります。さらに、週休2日の普及に向け、モデル工事等を通じて現場の実態を把握し工事の進め方の改善にも取り組んでいるところであり、本年も北陸ブロック発注者協議会等の枠組みを通じて、管内自治体の皆様とともに取り組みを広げていきたいと考えております。

北陸地域づくり協会におかれましては、災害に対する安全・安心推進のための防災エキスパート活動や、専門的知識・技術の普及・伝承のための北陸建設振興会議の活動などを整備局とも連携して取り組んでいただいているところであり、心から感謝申し上げます。北陸地方のさらなる発展に貢献いただけますよう、引き続き積極的な活動をお願いいたします。

結びに、会員各位におかれましては、引き続き北陸地方整備局に対する一層のご指導、ご助言をお願いするとともに、皆様のご健勝と益々のご活躍を心からご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 人・まちをつなぎ、育む「せせらぎ Marche」



道地慶子先生(中央)と上坂会長(中央上)と道地研究室卒業生たち(「せせらぎ Marche」にて)

どうち けいこ  
道地 慶子

石川工業高等専門学校 建築学科教授

奈良県生まれ。The University of Manchester M.A. in Urban Design and Regeneration 修了。(株)住環境学研究所の主任研究員を経て、平成 20 年 10 月に金沢に赴任。

建築の意匠が都市の文脈の一部として景観となることの理念やデザイン理論、社会との関わりを研究。都市景観資源の調査やまちなみ計画策定にあたり、その土地の景観特性を生かした「○○らしい」まちづくりをデザインで応援している。

### 鞍月用水に沿って傾斜のある土地を路地でつなく「せせらぎ通り商店街」

「せせらぎ通り商店街」は、金沢市内の歴史・文化の風情を残す長町武家屋敷界隈と接し、金沢の中心である香林坊の裏側に位置しています。目抜き通りである百万石通りを背に、高低差のある土地に鞍月用水を挟むように新旧の個性的な店舗が約 1 キロにわたって建ち並ぶ趣ある商店街です。

かつてはこの鞍月用水の上に「香林坊下商店街」と呼ばれた水上商店街があり、昭和 61 年の再開発事業で取り壊された後、平成 8 年～9 年、姿を消していた用水が歴史的価値と防災観点から復活してこの趣を取り戻しました。



高低差のある土地に鞍月用水を挟むように新旧の個性的な店舗が建ち並ぶ趣のある「せせらぎ通り商店街」  
■商店街 Website <http://seseragi-st.com/>

私が「せせらぎ通り商店街」と出会ったのは、約 8 年前、金沢に赴任して間もない頃です。鞍月用水の復活に都市コンサルタントとして携わった「まちづくり研究会」の会長、上坂達朗うえさか たつろうさんから、「商店街はブランド構築の途上でいまひとつ認知されていない。商店街としての一体感に欠けている。商店街を元気にするアイデアはないか」とご相談を受けたのがきっかけです。

偶然にも、イギリス人の本校非常勤講師の先生にこの商店街に連れてきていただき、「ヨーロッパの街を思い起こさせる商店街だね。歩いていて楽しめるスケール、空間構造を持っている」と話し合ったばかりだったので印象に残っていました。

### 新しい試みが人と人をつなく「せせらぎ Marche」

「せせらぎ通り商店街振興会」の会長、たかきまさたけ高崎正剛さんは、老舗「味処 高崎」の若店主です。商店街自体も若く、平成 9 年にスタートしたと聞いています。役員の人たちもみな若くしてここにお店を開き、自らの人生をデザインしようとするユニークな方々です。とてもネットワークが軽く、事業を遂行する際の意思決定も非常に早く、すぐに新しい事業を試みることに賛同していただきました。

早速、私たちは金沢市がめざす中心市街地活性化の方針に沿い、せせらぎ通り商店街、石川高専とまちづくり研究会の立場の異なる三者が協力し、新たなデザインによる修景で商店街に一体感を醸成し、さらなる賑わいづくりとしての交流環境創出をめざして「多世代が集まれる地域型マルシェ」を、香林坊にぎわい広場を拠点として定期的を開催することにしました。出店者はせせらぎ通り商店街のお店で、来訪者が安心してクオリティの高い商品に手軽に触れることのできる機会を提供しました。



香林坊にぎわい広場での「せせらぎ Marche」

そのころの金沢市は新幹線開通前で、空き店舗の問題や若者の流出といった中心市街地の空洞化対策に悩まされていました。北陸の地はお天気が悪いせいで、外でのイベントはタブーのような雰囲気があったので「マルシェ」は新たなチャレンジでした。

「金沢市協働の街づくりチャレンジ事業」に応募・採択され、予算を獲得し事業を実現できることになりました。その後、2年続けて採択され、事業を継続することができました。金沢市との連携もうまく取れ、山野金沢市長もたびたび「せせらぎ Marche」に来られています。

最近では週末ごとに、市内のあちこちで「マルシェ」が行われるようになり、どこも大盛況です。よく考えたら、この様子もヨーロッパと似ています。日照時間が少ない金沢の人たちも、本当は太陽のある時期は思いっきり外で楽しむたかったのかもしれない。

## 住民・地域団体との共同

### 「地域の中で学生たちが育つ」

「せせらぎ Marche」は立場の異なる3者の共同事業です。せせらぎ通り商店街は出店者との調整、まちづくり研究会は事業実施補助・関係者との調整そして石川高専建築学科の道地研究室は全体の事業の企画・運営といったお互いの長所を活かした取り組みです。

具体的には、私たちの研究室はせせらぎ通りのブランディングを行うため、ロゴマークの提案やロゴマークを使った旗テントのデザイン・包装紙・衣装などを製作し、デザインワー

クでせせらぎ通りの一体感と賑わいを演出しました。これらは、実践教育として評価され、第39回石川県デザイン展で学生部門最優秀賞石川県教育委員会賞を受賞し、また翌年は、第10回全国高専デザインコンペティションの空間部門で最優秀賞である日本建築家協会賞を受賞しました。その後は金沢市の「地域商店街活性化事業」の採択を受け継続し今年で6年目を迎えます。

特に企画として成功しているのは他の地域団体との交流です。イベント時には他の地域団体との共同企画やパフォーマンスの場を提供しており、「せせらぎ Marche」にさまざまな人が集まり、香林坊・長町地区に賑わいを取り戻しています。

一時期交流が途絶えていた隣の長町地区の「金澤長町まちづくり事務局」が行っている「長町朝市」とは、石川高専の学生が「長町朝市」の手伝いに参加したり、「せせらぎ Marche」に出店していただいたりし協力関係を再構築しました。去年は共同企画として長町地区の高齢者の暮らしのニーズを把握し支援に活かそうと「せせらぎ朝市 de Marche」を実施しました。

学生たちは鞍月用水の掃除のボランティアに参加するなど、学生の活躍が地域団体同士の潤滑油となりさらなる交流が図られています。

地域だけの交流にとどまらず、東日本大震災や熊本地震の復興支援の企画も行っており、「せせらぎ Marche」での売上の一部を義援金として送っています。

金沢のまちは時を重ねそれらが何層にもなった空間構造を持ち、熟した景観を形成しています。その空気感の漂うまちで人々はとてもゆるやかにおだやかに時を過ごしています。

学生たちを育ててくれ、外から来た私を快く受け入れてくれた、歴史深いまちの寛容さと人々の温かさに触れ、これからもできる限りの協力をしていきたいと思います。

### 建設業で働く女性がカッコイイ！ 「けんせつ小町」のガールズトーク

北陸地方整備局 湯沢砂防事務所  
専門官 梅田 ハルミ

#### ■ 女性技術者集合！

平成29年11月28日(火)、湯沢砂防事務所では、事業開始から80年目を記念して「けんせつ小町のガールズトーク2017」を開催しました。

以前の建設業のイメージは、3Kに代表されるように「きつい」とか「男性中心の職場」と思われていましたが、女性の進出が目立つようになりました。近年、建設業界を挙げて女性の建設業での活躍を推進するために、様々な取り組みがなされています。例えば、女性専用のトイレ・更衣室を設置するなど現場のハード面の環境整備や、産休・育休制度等、仕事と家庭の両立のための制度の導入などがあげられます。工事現場でも女性が働きやすい環境づくりが進み、その様子も様変わりしつつあります。

湯沢砂防事務所においても女性技術者が在籍し、また、事務所発注の工事、業務に携わる女性技術者も増えてきています。

そこで、「女性技術者が普段どのような仕事をしているのか」「家庭と仕事との両立は」など、日頃思っていることを語っていただき、建設業へのイメージを変え、さらに建設業への女性進出が進むことを目的に開催されたものです。

この取り組みは平成28年度より実施し、今回2回目の開催となりました。



参加者一同で記念撮影

今回参加したのは、湯沢砂防事務所職員(入省1年目から20年目)4名、新潟県職員1名、

建設会社社員2名の計7名です。建設会社の方は、実際に工事現場で施工管理や若手の指導、建設機械のオペレータなど現場の第一線で活躍されています。



湯沢砂防事務所の女性技術者4名です。  
年代もいろいろ。(左から梅田、川邊、辻、玉木)

#### ■ お茶とケーキを頂きながら

ガールズトークは、自己紹介から始まり、終始和やかな雰囲気で行われました。進行にコミュニティラジオのFMゆきぐにの田村さんを迎え、より話しやすい雰囲気を作り出していただきました。



田村さんの進行により、終始和やかな雰囲気が進みました。

話題は、「建設関係に就職したきっかけ」や「女性が働きやすい職場かどうか」、「女性をもっと建設業に興味を持つためには」など幅広く、さらには家庭や趣味の話まで、予定時間をオーバーするほど話が盛り上がっていました。

## 建設関係に就職したきっかけ

建設関係に就職するきっかけは皆さん様々で、

- ・子供の頃、橋や土木施設などの整備に興味を持ち、高校(高専)で土木を専攻した。
- ・インターンで職場体験をしてみても。
- ・友人が建設会社に勤めていて、同じ会社にたまたま面接して採用された。
- ・中越地震で大きな被害を受けた旧山古志の地すべり対策などを知る機会があったこと。などのお話がありました。

学生の頃、土木関係の学科を専攻し、そこで土木に触れる機会があったことから就職に結びついているケースが多いようです。



湯沢砂防事務所のフレッシュ2人組(辻さん、玉木さん)。経験を積むため、日々現場でも活躍中です。

## 現在の仕事のやりがいは？

今回参加された方々は、就職して1年目から22年目という中堅まで、様々な年代が集まっています。経験を積むごとに技術力も積み重ねてきた皆さんに仕事に対するやりがい・思いを語っていただきました。



(左から)新潟県南魚沼地域振興局 吉田さん  
(株)フクザワコーポレーション 野本さん  
(株)多田組 渡辺さん

- ・砂防堰堤の整備により、実際に災害を未然に防ぎ、地元の方から感謝された。

- ・工事を実施する際は、地元の方々との調整が必要になってくる。一生懸命説明し、理解していただきながら工事を進め、大きな構造物が完成したときにやりがいを感じた。
- ・最初は覚えることがたくさんあり苦勞したが、仕事を覚えてくると楽しい。
- ・災害対応した際、被害に遭われた地元の方から悔しい思いをぶつけられ、対応した職員が一丸となって災害復旧に尽力した。対応後しばらくしてからその地元の方から「ありがとう」との言葉があり、良い経験となった。



(株)フクザワコーポレーション 野本さん/工事現場の現場代理人として現場の指揮にあたります。

## 女性技術者として困ったこと

男性が多い職場の中で、女性だから困ったこと、大変だったことについてお話を聞きました。

- ・入ったばかりの頃は怒られてばかりで、女性だからいつまで持つかと思われていた。そこは負けたくなかったの、今まで頑張ってきた。昔は現場のトイレも兼用で汚かった。今は女性用トイレに更衣室まであり、とても便利で快適になった。
- ・例えば重い測量器械を担いで斜面を登るなど、体力的に難しい力仕事は男性にお任せすることがある。
- ・最近こそ若い女性技術者が増えてきているが、昔は女性の上司、先輩が少なく相談相手がいなかった。男性には相談しづらい内容もある。
- ・特に気にしたことはない。逆に男性上司から気を遣われている。

というご意見もありました。皆さんの職場はいかがでしょうか。



(株)多田組 渡辺さん／工事現場では大型の重機も乗りこなします。

### ■仕事と家庭の両立は？

女性として大切なライフイベントとして、結婚・出産・育児がありますが、仕事と両立させることは非常に重要であり大変でもあります。現状をお聞きしました。

- ・仕事が遅くなる時は、母親に子供の面倒を見てもらったり、子供の迎えは夫と交代で行ったりと家族の協力が不可欠。最近子供が土木に興味を持ち始めている。親としては危険な思いをさせたくないが、嬉しい思いもある。
- ・夫が忙しくない時は子供の迎え等お願いしているが、お互い忙しい時期は仕事を切り上げるなどしている。家に帰っても家事があり忙しい。効率的に仕事をしないといけないし、周りの協力も必要だと感じている。

育児はまわりの協力が必要になります。女性に限らず、それぞれの生活環境に合わせ柔軟に対応できる職場環境も必要だと思います。



湯沢砂防事務所 川邊さん／より良い砂防堰堤を作るため、現地確認は欠かせません。

### ■もっと女性技術者が増えるためには

制度や広報など、業界全体で女性技術者を増やそうと推し進めているところではありますが、実際その中に身を置いてみて、もっと改善できることがあるのでは？というところを聞いてみました。



新潟県南魚沼地域振興局 吉田さん／総合学習では学生たちへ土木の魅力について語ります。

- ・やはり、「本当に女性がやっていける仕事なのか」という不安に対し、もっと具体的に紹介したい方がよい。女性が仕事をしていく上で、どのような1日、1年、長期にわたるライフイベントを含めた生活をしているのかがわかると参考になる。
- ・学校を対象としたPRを実施しているが、現場見学だけでなく、建設業が女性の仕事として成り立っているということを理解するために、実際の仕事内容についてもPRした方がよいのでは。
- ・工事現場では、更衣室付きの女性専用トイレが設置されたり、職場環境の改善も図られている。もっとPRしたほうがいい。
- ・学校に向けて現場見学会を実施している。生徒を対象に取ったアンケート結果を見ると、土木に対するイメージが変わっているのがよくわかる。また、さらなるイメージアップとして、人気の若手俳優を起用した建設業を舞台とした恋愛ドラマを放送すれば、若い人たちの意識も変わると思う。

なかなか斬新な案もありました。建設業に関する情報は発信されていますが、個々の働き方に参考になるような、より現実的なところでの情報が欲しいところです。





湯沢砂防事務所 辻さん、梅田／平成29年7月の九州北部豪雨では、TEC-FORCE 隊員として溪流調査に参加しました。

## ■ 様々な手法で情報発信

情報の発信方法として、コミュニティラジオを活用しました。湯沢砂防事務所では、防災や砂防にかかる情報発信手法として、管内コミュニティラジオを活用し、土砂災害防止月間の広報や、砂防工事にかかる情報など、広くPRしているところです。自動車利用の多い当地域では通勤時間帯の朝夕のラジオ聴取者が多く、ラジオを通して広く情報発信することが出来ました。

また、ラジオ音源と写真を利用して動画を作成し、誰でも見ることができるYouTubeに掲載しました。YouTubeの動画は湯沢砂防事務所ホームページから見ることが可能です。

また、事務所ホームページでも「湯沢砂防だより」に掲載しております。

**建設業で働く女性がカッコイイ！  
「けんせつ小町」のガールズトーク2017**

11月28日（水）、湯沢砂防事務所では、事業開始から80年目を記念して「けんせつ小町」のガールズトーク2017を開催しました。（昨年引き続き2回目の開催）今回のガールズトークは、「女性技術者が普段どのような仕事をしているのか」、「家庭と仕事との両立は」など白紙思っていることを女性技術者の皆さんに聞いてもらい、建設業へのイメージを高め、建設業への女性進出を促すことを目的で開催されました。今回参加したのは、湯沢砂防事務所職員4名、新築建築協会地域振興職員1名、建設会社（株）多田組（株）フクザコーポレーション）2名の計7名です。進行にエフエム福岡のパーソナリティ田村さんを迎え、終始和やかな雰囲気で行われました。

近年の建設業には、若い女性技術者も採用されるようになり、湯沢砂防事務所にも、現在4人の女性社員が在籍しています。また、女性の技術者に担当している工事・業務も増えて来ています。

今後、建設業で働く女性がますます増えていけばいいなと思います。

ガールズトークで出された主な事項

- ・建設業でも女性が活躍できるということも、学校や若い世代に知ってもらえるために建設業を親しみやすい言葉で発信して欲しいのでは。
- ・工事現場では更衣室付きの女性専用トイレが設置されたり、職場環境の改善も図られている。

今回のガールズトークの様子は、エフエム福岡のラジオ番組でも放送されています！

みんな笑顔で参加です！

語り合っている様子

(右から) 新築協長、建設会社の巧

湯沢砂防ホームページでも情報発信中

## ■ 今後も女性技術者の活躍に期待

建設現場で他業種（現場代理人、ドライバー、重機オペなど）の女性技術者に会う機会が増えており、設計コンサルや官公庁の打ち合わせでも女性技術者同士でということが珍しくなくなってきました。

ただ、今回のガールズトークでも話が出たように、建設業で働く女性の方々が実際どのような仕事をしているのか、仕事と家庭の両立がうまくいくのか等、疑問に思っている女性はたくさんいると思います。また、そういった女性の生の声を発信することにより、建設業に携わる皆さんの環境改善や意識変化に結びつくと思いますので、今後も湯沢砂防事務所なりのカタくない「ガールズトーク」を発信していければと思います。

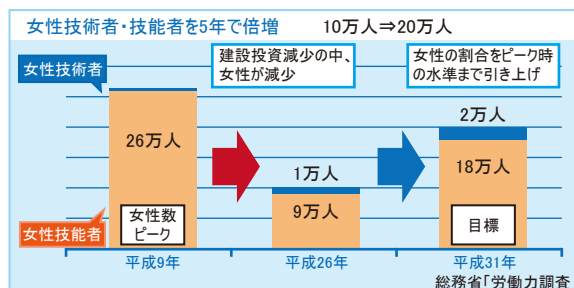
## 建設業で活躍する女性を応援

平成26年8月、国土交通省は、女性のさらなる活躍を目指し、建設業の女性技術者・技能者を5年以内に倍増させることを目標に、業界団体と『もっと女性が活躍できる建設業行動計画』を策定しました。

背景には少子高齢化で生産年齢人口の減少が進む中での担い手確保もありますが、これまで「男性」が中心だった建設業で、技術や経験を持った女性が生き生きと活躍できる効率的で快適な職場環境の整備は建設業の魅力アップにつながります。業界に新しい活力や刺激をもたらす女性「けんせつ小町」（建設業で活躍する女性の愛称）の活躍に期待が高まっています。

建設業で活躍中の女性、活躍したい女性を応援する総合ポータルサイト「建設産業で働く女性がカッコイイ」（<http://genba-go.jp/know/woman/>）もあります。

(図：国土交通省ホームページ)



## 北陸・冬の味覚 幻魚（新潟県・富山県）



糸西（糸魚川・西頸城地域）名物「ゲンギョの寒風干し」。「かに釜揚げ」と並ぶ人気商品

冬、北陸の海岸沿いを走り、道の駅などに立ち寄ると新潟県では「ゲンギョ」、富山県では「ゲンゲ」と呼ばれる幻魚に出会う。

かつて、名立、能生などの漁師まちでは11月下旬頃から3月頃まで、どの家の軒下にも幻魚が吊されていた。

コラーゲンが豊富に含まれる幻魚は、近年、人気が高まり、せんべいなどの加工食品の開発も進んでいる。



### 「幻魚」の由来

幻魚の正式名称は「ノロゲンゲ」。

幻魚は全身が柔らかく、ヌルヌルとしたゼラチン質で覆われている。20～30センチほどの深海魚で、新潟沖から富山湾にかけての日本海の水深200～1,800メートルに生息している。

この地域では、餌を入れた網製のわな籠を海底にいくつも仕掛けてカニを誘い出す「カニ籠」という独特の漁が行われている。幻魚専門の漁はなく、この「カニ籠」といっしょに水揚げされる。

漁村では、昔から食べられていたが、網や他の魚たちを傷つけると浜辺にうち捨てられる価値のない魚だった。

そのため「下魚」といわれ、「ゲギョ」がなまって「ゲンゲ」になったと言われるが、深海魚でなかなか見ることがないことから「幻の魚」という意味から「ゲンギョ」と呼ばれるようになったとも言われている。

### 見た目に合わない上品な味わい

見た目はグロテスクだが、汁物、煮物、揚物、干物、どの調理でも絶品になる。「黒幻魚」、「白幻魚」があり、干物には「黒幻魚」が使われる。水揚げされた黒幻魚を1匹ずつくしに刺して縄に吊し5日ほど寒風にさらす。味は白身で淡白だが、寒風干しで凝縮された旨みが酒によく合う。ここへ来たらまた必ず買おうと思えるおいしさだ。道の駅 マリンドリーム能生近くに住んでいるという女性が、「幻魚は好きなのでよく来ます。今日は、晩酌にします」と言い、慣れた様子でゲンギョ干しをひと竿買っていた。



店先に黒幻魚を吊した竿が並ぶ磯貝鮮魚店



白幻魚は、地元では汁物にして食べることが多い

「白幻魚」は「黒幻魚」より少し大きい。汁物にするとゼラチンのプルプルした食感とくせがなく淡泊な味が何とも言えない味を醸し出す。

道の駅 親不知ピアパークのレストピアの冬の名物に「げんぎょ丼」がある。もちもちとする食感とあっさりとした味わいはあなごのようだ。



「ゲンギョ」はゼラチンで覆われ水分が多いのでいたみが早い。海が荒れれば漁に出られない」という（道の駅 マリンドリーム能生 鮮魚センター 磯貝鮮魚店）



道の駅 親不知ピアパークで販売されているゲンギョ(写真上)と「げんぎょ丼」(写真下)

### ■ 手軽にコラーゲンを摂取できる幻魚せんべい

幻魚のコラーゲンに関心が集まり、富山では、急速冷凍したゲンゲから有効成分を濃縮させて、せんべいなどの菓子になっている。

昭和3年の創業以来、せんべいの田中屋は、ふるさと富山への思いをおせんべいで表現しようと日夜研究開発に情熱を注いできた。富山ならではの素材にこだわり続け、シロエビせんべいに続き、富山湾で水揚げされる幻魚を生地に練り込み、薄塩でせんべいをつくりあげた。

これなら、魚が苦手の人でも、簡単に幻魚を食べて、コラーゲンを摂取することができる。

軽量なのでもお土産にも最適だ。



「渦巻き幻魚せんべい」

優良観光土産品（平成20年観光連盟会認定）  
富山県食品産業会長賞受賞（平成21年5月）  
ぐるなび接待の手土産セレクション2016

冷凍技術が進み、上品な味とコラーゲンという栄養素を含む幻魚は、今後、全国でも人気を集める日が来るかもしれない。

どんなに技術が進み、流通が発達しても、日本海の寒風でその旨さを増す昔ながらの幻魚の食文化が幻になることがないようお願いながら寒風干しを肴に杯を傾けた。

### ■ 取材協力：

- (有) 磯貝鮮魚店  
道の駅・マリンドリーム能生 鮮魚センター内
- 昭和3年創業 せんべいの田中屋  
富山市問屋町1丁目2番46号

# 特集「地域とともに」Ⅰ

## 「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業

(一社)北陸地域づくり協会は、(社)北陸建設弘済会時代の平成7年から、公益事業として「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業制度を創設し、地域活性化に成果が期待できる事業を募集・採択し支援しています。

今回は、第22回(平成29年度)事業で支援している活動を紹介します。

### 伝えたい、みなとまち新潟の魅力 信濃川ウォーターシャトル案内人養成講座 リバークルーズ愛好会(新潟県新潟市)

#### 2019年、開港150周年を迎える新潟港

「信濃川ウォーターシャトル」は、新潟市に大きな恵みを運ぶ信濃川を、新潟市歴史博物館「みなとぴあ」から新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」、国の重要文化財「萬代橋」をくぐり、新潟県の観光情報発信基地「新潟ふるさと村」まで往復運航している。途中、6つの船乗り場から乗船できる。定期便(冬季運休)のほかに周遊便やチャーター便があり、花火見物、水上挙式などにも利用されている。船上から四季折々の景色とともに新潟市の名所が眺められる魅力的な観光資源になっている。



信濃川ウォーターシャトルから見る  
やすらぎ堤のサクラは見事

リバークルーズ愛好会は、2019年元旦に新潟港が開港150年\*を迎えることから、信濃川ウォーターシャトルから盛り上げようと結成された。2016年度に3回の「リバークルーズフォーラム」を船内で行い、「水辺の活用」、「川辺の賑わい」、「船乗り場の利便性」などを話し合った。その中で「船内にガイドがいて説明してくれたらいいのでは」という意見があった。「現在、定期便にガイドはいない。県外の団体客が乗船する場合はCDを使い案内を流すこともあるが、運航状況により、案内と景色がずれることもあり積極的に使用していなかった。開港150年事業で乗船客も見込まれることから、

ガイド養成講座を展開することにした」と事務局の瀬賀知代<sup>せがちよ</sup>さんは話す。

\*新潟港は、1858年(安政5年)の日米修好通商条約で開港五港の1つに指定され、1869年1月1日に開港し、以後、新潟市の発展を支えている。

#### 案内人養成講座を開校

昨年7月、新潟日報、日本経済新聞にガイド募集案内を掲載し、すでにガイドとして活躍されている方、新潟へ住むことになり新潟市を知りたい方、新潟市の魅力を発信したい方など、女性8名、男性13名の受講者が集まった。人生経験が豊富な60代以上の方が半分以上、また色々なジャンルの方がいてどんなガイドが誕生するのか楽しみなスタートとなった。



ウォーターシャトルでのガイド体験研修(写真上)で指導に力が入る新潟シティガイドの関代表(写真下)

初回は、活動を応援する行政から新潟港の歴史、役割、航路浚渫事業、やすらぎ堤の役割な

どを伺った。2・3回目は、新潟シティガイド代表、関克人<sup>せきかつと</sup>さんから「お客様のほとんどが水辺空間を楽しむために乗船されている。見えるものが何であるか分かればほぼ満足なので、短く簡潔に案内するように。見えるものに、ちょっとした面白さや興奮をプラスするのがガイドの役割だ」とガイド本人が演出家になり個性を活かして案内してほしいなどの指導を受けた。5班に分かれ、協力しながら各自が案内する内容を構築し、4回目は、行政や応援団体関係者に案内、5回目は、一般乗客もガイドした。

「受講生は、ガイド、添乗員、アナウンサーなど既に技術的な面で基本を備えている人が多く、案内ポイントをいかに楽しく伝えられるかにかかっていた。結果、いつデビューしても立派にやれるガイドがたくさん誕生した」と関さんは驚いている。

## まち歩きと信濃川ウォーターシャトルの組み合わせ

12月6日の閉講式では、路地連新潟代表、野内隆裕<sup>のうちたかひろ</sup>氏から、信濃川ウォーターシャトルを利用したガイドにヒントをいただいた。



「砂丘のまちにいがた」の成り立ちなどを説明する路地連新潟代表、野内さん(写真左)閉講式で修了書を受講生に渡す瀬賀さんと受講生たち(写真右)

『開港150年』に焦点があたっているが、新潟港は開港以前の江戸時代から北前船の寄港地だった。各地の産物を積んだ舟が、信濃川、阿賀野川を通り集まってきて、まちに張り巡らされた堀を行き交っていた。多くの人が訪れ、回船問屋や蔵が建ち並びまちは賑わっていた。当時の文化財は昨年、「日本遺産<sup>\*</sup>」に認定されている。その歴史も踏まえ重層的に紹介すれば、より奥深く新潟の魅力が伝えられるだろう。

<sup>\*</sup>北海道から福井県までの7道県にまたがる11市町の「北前船」をテーマとしたストーリー「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が、昨年、日本遺産に認定された。新潟市では11件が構成文化財として認定されている。

1878年(明治11年)、日本を訪れ、新潟、東北を巡り北海道まで踏査した旅行記「日本奥地紀行」を書いたイザベラバードは、津川から船で阿賀野川、小阿賀野川、信濃川を下り、新潟に到着し、約一週間滞在している。

歩いて見る新潟と船上から眺める新潟の風景は違う。ウォーターシャトルにガイドが本当に必要かとも考えたが、試験的にまち歩きとウォーターシャトルを組み合わせたガイドをやってみて、また違った視点でまちの魅力を紹介できることが分かった。イザベラバードの旅は船を利用している点で参考にできる部分があるので研究してみてもどうか」と野内さんは受講者へエールを贈った。



萬代橋をくぐる信濃川ウォーターシャトル後方の高層ビルは北前船をデザインに取り入れた新潟日報メディアシップ

最後に受講者から、「説明するむずかしさを知った」、「ガイドを経験し新しい視点で新潟を見られるようになった」、「目標が見えず、どういうガイドをイメージしているのかわからなかった」などの感想が述べられた。

瀬賀さんは「講座修了後のアンケート(17人に配布・15人返答)の結果、継続希望者が7人、内容によって継続が4人、やめるが4人だった。いただいた意見を参考に関係者で目的をはっきりさせ、体制を決め、1月下旬に参加希望者と調整し、ガイドとして活躍できる第2ステージを作りたい」と次年度に向け意欲を燃やしていた。

### 問い合わせ先：リバークルーズ愛好会

新潟市中央区下大川前通二ノ町 2230-33  
万代橋ビルディング11F  
信濃川ウォーターシャトル(株)内  
電話 025-227-5200

## 特集「地域とともに」Ⅱ

### 地域づくりセミナーを開催しました

北陸地域づくり協会は、地域の自立と活性化を促進する目的で、公益事業で「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業を平成7年度から開始し、地域に住む人々の多様な研究や活動を支援しています。これまでに22回、事業を募集し、261課題を助成しています。

昨年度は、助成者の「事業へのアドバイスがほしい」、「助成者同士の情報交換・交流の場がほしい」などの要望から、初めて地域づくりセミナーを長野市で開催しました。ディスカッションでは、21回事業で支援していたソルガムプロジェクトの「活用推進協議会」の設立、組織づくりでの課題を整理し解決策、事業モデルについて話し合い、とりまとめ、その後の活動推進で成果がありました。

審査委員からも「助成金だけでなく、これまでより一歩踏み込んだ支援が必要ではないか」とのご意見をいただき、今年度も地域づくりセミナーを開催しました。

今回は、富山県内で助成した高岡クラフト市場街実行委員会、八尾スローアートショー実行委員会の活動を通して、地域づくりの課題解決の方法を学びました。



■日 時 平成29年11月30日 14:00～17:00  
■会 場 高岡市生涯学習センター  
■参加者 22名

最初に高岡クラフト市場街実行委員会の副実行委員長として活動され、大学で、「高岡クラフト市場街」と学生たちのかかわりをプロジェクト授業として運営されている、有田准教授から企業でのデザイナーの経験をまちづくりに置き換え、課題を解決しデザインしていく過程をお話いただきました。

講演：「まちづくりとデザイン  
—高岡クラフト市場街から考える」  
講師：富山大学芸術学部 准教授 有田行男

#### まちづくりにも「伝える」という視点が必要

大学で工業デザイン、大学院でデザインマネジメントを学んだ。当時の花形であった家電業界に入り、京セラ、NECでは、ミリメートルの単位で携帯電話のデザインに取り組んでいた。こだわりを持ってデザインしても、最後は、売れる商品と売れない商品に選別された。

業務を行う中で、インテリア業界のブランドとともに、商品づくりや広告を行う機会に恵まれ、まったく新しいお客様への情報発信の仕方を考えるようになった。どんなにデザイン、ものづくりを一生懸命やっても「伝える」ということを大事にしなければ、お客様に商品をお届けられないことを学んだ。これが「デザインマネジメント」の視点であり、まちづくりにも必要だ。



講演する有田行男准教授

#### 問題と課題の違いを見極め課題設定する

「問題」と「課題」という言葉がある。英語に置き換えると問題は「problem」、課題は「task」で、つまり「問題を解決するための課題設定」ということで、似ているようだが、全く違う。

例えば、高岡のものづくりが「衰退している」、「継承されていない」、「見えづらい」という問題がよく取り上げられる。ここで問題をどうとらえるかでやるべきことは変わっていく。

地域の問題はいろいろあるが、「解決できる問題」と「解決できない問題」がある。最初にみんなでどちらかを目線を合わせる。

次に時間を視野に入れて、「すぐに解決できる問題」と「すぐに解決できない問題」に分ける。「助成」依存体質という問題が地域にはあるものの、もっと問題なのは「主体の空洞化」だ。

本質的な価値がないところに、本質的な価値をつくらうとしたら時間がかかる。さらに深刻な状況、「主体的な意志が存在しない」という問題もある。すぐに解決できる問題と時間をかけて解決する問題を分けて取り組む必要がある。

一方、課題は、いろいろな設定の仕方があるが、一見すると見えにくい。課題の設定が不十分だと、なかなか解決できない。見えている問題と見えづらい課題という状況がある中で、どの問題に対してどう課題を設定するかがポイントになる。

デザインにも「見えるデザイン」と「見えないデザイン」がある。「ポスターをデザインしてください」という依頼がよくあるが、「ポスターをつくるのがいいのか」、「チラシが必要なのか」という議論がされていない場合が多い。「何をデザインするのか」という根本的な部分が設定されていないと、いくらデザインという部分に労力をかけてもうまくいかないのではないか。見える部分と見えない部分をいっしょに考えていこうというのが「デザインマネジメント」であり、同じようにまちづくりもデザインだと思う。

### モチベーションを創出・持続するしくみをデザインする

「工芸都市高岡クラフト展」(1986年開始)の来場者・売上げが減少する中、高岡市と富山大学芸術文化学部が「工芸都市高岡クラフト展をコアとする全体イベントの運営」の再構築を提案し、2012年、「高岡クラフト市場街」がスタートした。

「工芸都市高岡クラフト展」(観る)をコアに、「作家の引き出し展」(クラフトショップで買う)、「クラフツーリズム」(オープンファクトリーで体験する)、食と職をつなぐ「クラフトの台所」(食べる)など、クラフトに関わるイベントが行われている。

高岡のまちなかは戦時中の空襲を逃れているので、昔ながらのまちなみが残っている。「工芸都市高岡クラ



当日のガイドブックになるタブロイド

フト展」開催会場が面する「御旅屋通り」、土蔵造りの建物が残る「山町筋」、千本格と石畳が美しい「金屋町石畳通り」を会場に、職人が築いた工芸都市高岡を発信している。

高岡は、行政区画が多く、また人々の結びつきも強い。昔からの地区単位のイベントが存続し、町の人達もイベント疲れしていた。そこでイベントの目的は「継続」、「まちなかのにぎわい」のどちらかを議論し、「まちなかのにぎわいだよね。それなら工芸クラフトを軸として集約できないか」という結論になった。去年は3つのイベント、今年はさらに1つ追加され4つのイベントを同時期に開催し、高岡のブランド力を高めていこうとしている。



山町筋の土蔵の軒下がマルシェになる

また年々、開催規模が拡大しているが、「産官学のボランティア運営」のため体制が不十分だと感じた。どうやって運営していくかという「運営体制」と、その体制の中で活動している人たちのモチベーションの持続が問題だった。

そこで、運営体制を支えるモチベーションの創出をデザインすることにした。予算がないから学生に依頼するという人がいるが、学生は世間で考えられているより、授業、課題制作、アルバイトと忙しい。その学生を巻き込むには「学生でもできること」ではなく「学生しかできないこと」をどうつくるかだ。結果として学生たちのやる気を引き上げる。

最初は手探りで、学生がやりたいことから始めた。地域の中でやるイベントは、街の外の人と街の人の間で壁ができる可能性があるが、学生がいると「話しかけやすい」、「場が和む」という雰囲気生まれる。学生はそのことに気づき、「コンシェルジュ」として来場者と関係者をつなぎ、市場街、高岡市を案内している。

昨年からは、学生たちに、まずやりたいこと(Wi11)を発言させ、次に高岡クラフト市場街

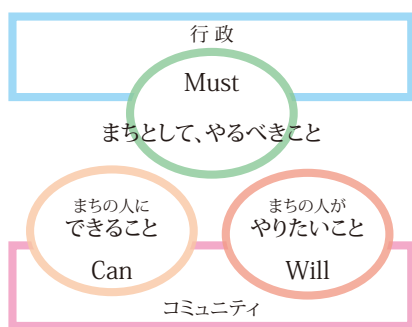
としてやるべきこと (Must) を考え、誰がやる、できる (Can) のかにたどりつく。そこで、(Must)、(Will)、(Can) の重なりあっている部分が、効果的な活動であり、学生として一番パフォーマンスを発揮できる部分だと指導している。



富山大学芸術学部学生が「コンセルジュ」として案内

今年は、学生個々が活躍できるステージを与えられるよう、印刷物などの企画、デザインやラジオCMの制作の場を提供した。

まちづくりのデザインにも同じことが言えるのではないかと。行政は、行政の立場からやるべきこと (Must) を語る。しかし、まちの人たちにとっては、必ずしもそれがやりたいこととは限らない。まちの人たちがやりたいこと (Will) とまちの人たちができること (Can) の交点をどう探っていくかが大事だ。



行政はグランドデザインを描き、進む方向を示さなければならない。まちの人たちの活動はグランドデザインの1%に満たないものかもしれないが、行政は拾いあげ、まちの人たちも対等な立場で、1%のデザインを実施していく。

グランドデザインは年度型、フローで考えていかなければならないが、まちづくりとコミュニティは年度で区切られるものではない。ストック的に積み重なっていくもので、それが持続可能なまちづくりにつながるのではないかと。

## ディスカッション

ディスカッションは、森山奈美審査委員の進行で金魚鉢会議が行われました。

「おわら風の盆」で知られる八尾（富山県富山市）は、古くから多くの人やモノが行き交う商業の町として栄え、江戸時代から戦前までは養蚕業が盛んで「蚕都」と呼ばれていました。

八尾町時代の2004年から2010年まで、「八尾スローアートショー」という、地元住民と都会の芸術家がアートを通して交流し、まちを再発見、再認識し、まちの新たな価値を創造していこうというプロジェクトがあり、アートショー、ワークショップが開催され住民にも好評でした。しかし廃校、休校となり、拠点となる校舎が解体され、プロジェクトは休止状態となっていました。

窪野事務局長は、「<sup>すのう</sup>数納邸」を拠点にまちなかを活性化したいと呼びかけ、3年前に研究助成事業に応募し実行委員会を再結成し、4つの事業、①天蚕「縦の糸・横の糸」絆プロジェクト、②多文化共生・インバウンド事業、③「ネパール・エゴマ」プロジェクト、④富山バリアフリーツアーの活動経緯を説明しました。

その後、今里会長は、「地域づくりのソフト面、心をつなぎ八尾の地域色を活かし少しでも住みやすいまちになるよう活動を続けたい」。江上さんは、「高齢者や体の不自由な人がまちへ出て人に会い、人もまちも元気になるよう富山バリアフリーツアーセンターの設立を目指している」。友咲さんからは「会を引き継ぎ、宿命だと覚悟を決め、天蚕を何とか残したいと開墾・植樹を繰り返し10年間やってきた。生産量を増やし製品化したいが資金と人が集まらず、事業化できずモチベーションが下がってきている」と事業への想いを語りました。

ここで、参加者からこのグループのイメージを2分間にまとめて話してもらいました。

「少数精鋭の役場のイメージ」、「いろいろな課題に真剣に取り組んでいる」、「こんなにたくさんイベントをやって大丈夫、やりたいこと、いっしょにやれないのかな」、「たくさんのお話を聞いているが歯車がかみあっていない」、



「漫画『NARUTO』の中の長老会議のイメージ」などが出ました。



森山審査委員の進行で進められたディスカッション



参加者が八尾スローアート実行委員会にメッセージ

中央で八尾スローアート実行委員会の5人と森山さんが対話しながら、現在の課題を整理し、解決策を導き、今後の取り組みへのアドバイスをいただく形で進められました。

今里 道真さん	八尾スローアートショー実行委員会 会長
窪野 達章さん	八尾スローアートショー実行委員会 事務局長
江上 昌子さん	福祉なんでも相談所 (株) えがみさんち代表
友咲 貴代美さん	富山県がうん天蚕の会 会長
後藤 宜彦さん	富山県がうん天蚕の会 事務局

天蚕のストールを巻いた富山県知事と友咲さん



天蚕のストール  
天蚕は白い蚕と違い、野生種で、桑の葉でなく、クヌギなど里山の広葉樹を食べる。繭から光沢のある美しい黄緑色の糸ができる。

#### 4つの事業を縦糸に共通する横糸で織りあげる

その後は、「天蚕の事業化」を中心に話し合わせ、顧客を掴むために天蚕の価値を知ってもらいながら、売れるしくみ、しかけを考えていってはどうかにまとめられました。

途中、参加者から「来年、金沢に富裕層向けのホテルが建設される。訪日外国人が増えるが、守るべきものをはっきりとさせ、外の風を入れながら攻める姿勢が大事。蚕の森をつくる

研修にもストーリーが必要ではないか」、「活動がばらばらなように見えたが、弱者支援を文化やアートで応援しようという全体ミッションを感じた」などの意見がありました。

森山さんからは、「実行委員会でやっている4つの事業は別々のように見えるが、それぞれが目指しているものは『八尾のまちを将来にわたって持続可能にしたい』ということにまとめ、何のためにやっているのかをはっきりさせ、何に協力していけばよいのか分かりやすくする。さらに八尾のようなまちがこれからの世の中に必要だと感じている層に訴えかける方法が必要だ。

八尾は、『おわら』という全国的な知名度、集客力のある大きな入口を持っている。この入口を日常につなげ、風の盆に来ている人達をファンにして、天蚕商品を買って帰る、バリアフリーツアーに参加してくれるというようなつなぎを考える。4つの事業を縦糸に、どういう横糸で織り上げていくかを目に見えるようデザインしていったらいい」とアドバイスがありました。

最後に八尾スローアートショー実行委員会のメンバーへメッセージをプレゼントしセミナーを終了しました。

2回目となったセミナーでは、有田准教授の講演から、まちづくりの進め方について学ぶことができました。

八尾スローアートショー実行委員会の活動では、バラバラに見え分かりにくかった活動を、「持続可能な八尾」という共通項を設け、受け継いできた天蚕文化、精神的文化を継承し、これまでどおりそれぞれが「生きた証し」を残すべく活動を続ける。その姿勢、生き方を「おわら風の盆」などに訪れる人に観て、共感して、八尾へ来てもらうというまちづくりのガイドラインが描けたようです。

全体をとおして、改めて「伝える」ことの大切さ、難しさを痛感しました。引き続きセミナーを開催し、参加者の方々に地域づくりのヒントを見つけていたただける場をつくりたいと思います。

## 会員だより

「平成 29 年秋の叙勲」で、栄えある勲章を 2 名の会員の方が受章されました。  
長年のご功績が顕彰されたものであり、心からお祝い申し上げます。

### 瑞宝双光章

有川 成正 氏  
(富山県南砺市在住)

元北陸地方建設局  
企画部 環境審査官



### 御 礼

この度、はからずも、平成 29 年秋の叙勲で瑞宝双光章を拝受しました。

これもひとえに皆様方はじめ上司・同僚・後輩や多くの方々のご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

阿賀川工事事務所の在職時には、故大島福夫さんはじめ多くの職員の方々・地元OBの方々からご指導を頂いたこと深く感謝申し上げます。阿賀川の流域面積は富山県の約 1.5 倍の 6,052km<sup>2</sup> であり、当時、流域内には 2 市 15 町 11 村ありました。水防演習や阿賀川直轄改修 70 周年記念事業および平成 3 年夏の渇水時の取水調整の実施に際しましては、流域内の多くの首長さんはじめ多くの方々のご理解ご協力より実施出来ましたこと深く感謝申し上げます。

利賀ダム事務所の在職時には、基本計画の取りまとめに際し本局からの強い指導の下、職員一丸となって取り組み作成できましたこと感謝申し上げます。その際、富山県の土木部・企業局さんはじめ砺波市等の関係市町村の首長さんや職員の方々からいただいたご指導ご支援のお陰で、基本計画が纏まりましたこと感謝申し上げます。

利賀村では「世界そば博」など年中色々なイベントを開催し村の活性化に取り組んでおられ

ました。利賀村は、ダムによって水没する地区であるにも関わらず、村長さんはじめ多くの村民の方々にご理解ご協力を頂きましたこと深く感謝申し上げます。特に宮崎元村長さんは、いつも明るく多方面に顔が広く、色々のご支援を頂いたこと御礼申し上げます。

企画部の在職時には、平成 6 年 6 月に新潟地震 30 周年記念事業を担当し、それを契機に、北陸建設弘済会の碓井専務及び職員の方々のご指導ご支援を受け、災害時の体制・情報連絡及びOBさんの協力について検討出来ましたこと、深く感謝申し上げます。平成 7 年 1 月 15 日に発生した阪神大震災への対応について、多くの方が阪神地区へ派遣され活躍されました。それを契機に他地建への応援も含めた体制・情報連絡及び防災エキスパートについて、関係職員や弘済会の方々のご指導ご支援により検討(案)を作成し、平成 8 年 12 月 6 日の蒲原沢土石流災害に際し、その案を基本に対応できましたこと本当に有難うございました。

平成 16 年 10 月 23 日には、中越大震災が発生しました。今後とも異常気象・大地震などによる大災害の発生は避けることはできませんが、技術の進歩に併せハード・ソフト面の災害対応がだんだんと進歩向上し、北陸地域がより住みやすい地域となるよう願っています。

最後に、今までお世話になりました方々に深く感謝申し上げます。

## 瑞宝双光章

阿部 利夫 氏  
(新潟県上越市在住)

元北陸地方整備局  
用地部 用地調整官



### 「北陸地方建設局」勤務当時の思い出

平成 29 年度「秋の叙勲」をいただき皆さまに感謝申し上げます。

これもひとえに永年にわたり先輩の方々・同僚・後輩の方々から頂いた御指導・御支援の賜と深く感謝申し上げます。

昭和 39 年の新潟地震での被害を目にしながらか北陸地方建設局に面接へ、そして 40 年に採用され地元である高田国道工事事務所に配属、道路管理業務を担当し道路法に基づく許認可業務が主体でした。

6 年目で、高田国道工事を離れ大石ダムへ。

寮は病棟を利用した 3 人部屋の生活で、部屋の中が干し物でいっぱいだったのも今は懐かしい。

また、若い職員が多いこともあり野球とバレーボールが盛んでした。学生時代から打ち込んでいたバレーボールは、北陸選抜で数回全国大会に出場し 3 位に入れました。

その後、路政課から電算室へ異動。かつての職場である路政課からの要請で、占用物件の「許認可システム」(ROPS: ロプス)を開発し、更新処理の省力化に携わりました。

昭和 59 年 4 月高田工事の道路管理係長に異動となり、そこで道路管理業務の厳しさを知ることになります。

### 「60 年豪雪」

60 年 1 月情報連絡体制の中、某新聞社の知り合いの記者から能生地区の読者から「朝刊が届

いていない」との問い合わせがあり、現場からの情報を確認の上、「国道 8 号は通行止めにはなっていない」と回答したが、実際は深夜からの降雪(約 70cm)で除雪が進まず道路がすり鉢状態になり筒石～能生間が凍っていて大渋滞という実態で、記者さんには状況説明しましたが、大激怒された事にもがい思い出です。

### 「道路管理瑕疵事案」

親不知地区の 100mm の事前規制対応時のさなか、昭和 60 年 7 月 8 日、上越市虫生岩戸地先で土砂崩落が発生し自家用車 1 台が海に押し出され、30 歳代の男性が死亡、同乗の 70 歳代の女性が軽傷でした。「事故状況の報告・瑕疵事案」として被害者の方との厳しい対応のなか、お亡くなりになった男性の自宅である長野県更埴市に伺い、ご両親の前で示談をし、女性の方については自宅である戸倉上山田温泉へ伺い示談と成りました。

北陸地方整備局勤務 39 年と北陸建設弘済会にお世話になり、13 年間の単身生活を最後に 66 歳で地元に戻ってきました。

今は町内会長 4 年目となり、「春日山城・福島城・高田城」等を地元サークルの仲間と歴史を学び、「日本のワイン葡萄の父」といわれている地元の偉人、川上善兵衛が創始者である「岩の原葡萄園」に年間労働 5 ヶ月のアルバイトとして、房づくり～収穫～剪定について学んでいます。

こんなふうに、今は地域づくりと仲間づくりを楽しむ生活を送っています。

# 伝言板

(一社)北陸地域づくり協会が主催、共催、後援等で行う一般参加型事業です。  
お時間をみつけ、ぜひお立寄りください。

イベント名	期 日	開催地・会場	内 容	問合せ先	
平成 29 年度 「防災とボランティア 週間」防災講演会	1月17日(水) 15:00～17:15	アートホテル 新潟駅前 4F「越後」 (新潟市中央区笹口) 定員 150 名	■講演① 「TEC-FORCE活動について」 講師:浅井 誠二 氏 国土交通省北陸地方整備局 企画部 緊急災害対策調整官 ■講演② 「被災地での災害支援活動～多様性のある災害ボランティアとの協働～」 講師:野村 祐太 氏/野村 卓也 氏 (株)野村防災 代表取締役/同 取締役	北陸地域づくり協会 企画部 TEL:025-381-1160 FAX:025-383-1205 締切:1月10日(水)	
第 17 回 社会資本整備 セミナー	1月16日(火) 13:00～15:30	長野バスターミナル 会館 4F「芙蓉・寿」 定員 80 名	■講演① 「最近の国土交通行政の取り組みについて」 講師:北陸地方整備局 担当官 ■講演② 「社会資本の維持管理に関する研究について」 講師:国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 担当官	社会資本整備セミナー 事務局 (北陸地域づくり協会 技術部) TEL:025-381-1882 FAX:025-383-1470 締切:1月10日(水)	
	1月18日(木) 13:30～16:00	新潟県自治会館 1F「講堂」 定員 300 名			
	1月22日(月) 13:30～16:00	石川県地産産業振興 センター 2F「第1研修室」 定員 150 名			
	1月23日(火) 9:30～12:00	ポルファートとやま 4F「琥珀」 定員 150 名			
河川防災 フォーラム 2018 水防災意識社会の 再構築に向けて	1月29日(月) 13:00～17:00	新潟市万代市民会館 「多目的ホール」 (新潟市中央区東万代町) 参加費 500 円	■講演 3 題 「水防災意識社会の再構築に向けた国土 交通省の取り組み」(北陸地方整備局) 「新潟県の平成 29 年の水害と水ビジョン の取組について」(新潟県土木部) 「水防災意識社会の実現を目指してー水 害リスクを踏まえたまちづくりに関する 研究ー」(八千代エンジニアリング(株)) ■討議セッション	NPO法人水環境技術 研究会 申込先:(株)キタック TEL:025-281-1115 FAX:025-281-0005 締切:1月22日(月)	
ゆきみらい 2018 in 富山	2月8日(木) ～2月9日(金)	富山県民会館 富山県五福公園	「温か～いまちづくりで世界につむぐ」 をテーマに、雪国の「温か～いまち づくり」について、様々な分野から 取組を紹介。また北陸新幹線開業で 注目を浴びる北陸圏から冬の魅力を 広く発信し、さらに、世界へのつな がりを紡いでいくことを目指す	「ゆきみらい 2018 in 富山」実行委員会事務局 (北陸地方整備局 企画 部 広域計画課) TEL:025-370-6687 FAX:025-280-8835	
	●シンポジウム	2月8日			富山県民会館
	●研究発表会	2月9日			富山県民会館
	●見本市	2月8・9日			富山県民会館
	●除雪機械展示・実演会	2月8・9日			富山県五福公園
第 14 回 南砺利賀そば祭り	2月9日(金) ～2月11日(日)	利賀国際キャンプ場 周辺(南砺市利賀村 上百瀬)	利賀特産そば粉を使用した手打ち そばや岩魚の塩焼き、五平餅などを 味わい、民謡、雪夜の花火ショーな どが楽しめる	南砺利賀そば祭り実行 委員会(南砺市利賀 行政センター内) TEL:0763-68-2111	
「北陸地域の活性 化」に関する研究 助成事業報告会	3月14日(水) 13:00～17:15	新潟東映ホテル 1F「白鳥の間」 (新潟市中央区弁天) 定員 150 名	第 22 回「北陸地域の活性化」に 関する研究助成事業、17 課題の 成果報告	北陸地域づくり協会 企画部 TEL:025-381-1160 FAX:025-383-1205	

## 編集後記

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

今号「特別企画」では、熱い想いをもち、地域、暮らしを良くしていこうと建設現場で活躍されている女性たちを紹介しました。仕事の魅力、課題を発信し、共感する仲間をつくり、いっしょに解決していこうという前向きな姿はカッコイイ!最新技術の機器を使いつつも、コミュニケーションが大切な建設現場で、彼女たちの対話力、発信力は大きな戦力となるでしょう。(事務局)

## 地域づくり in ほくりく 第 15 号

発行 平成30年1月1日  
編集 一般社団法人 北陸地域づくり協会  
〒950-0197  
新潟市江南区亀田工業団地二丁目3番4号  
電話 (025) 381-1160  
FAX (025) 383-1205  
HP: <http://www2.hokurikutei.or.jp>